

## 第 43 回 大学教員セミナー 語学教育のあり方

～ グローバル社会の中での大学教育を考える ～

場所：大学セミナーハウス

東京都八王子市下柚木 1987-1

期間：2005 年 9 月 3～4 日

## 1、研修の内容

3日 講演

## (1) 大学における外国語教育

目白大学教授 竹前文夫

## (2) 信州大学における使える英語への改革

信州大学教授 尾鼻靖子

## (3) 「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ

早稲田大学教授 内田勝一

## (4) 中等教育学校における語学教育の現状

東京学芸大学教育学部附属高等学校教諭

笹田 巖

分科会

4日

全体会（前日の分科会の報告）

講演 今後の大学教育に期待する

大星 公二 （株）NTT ドコモシニアアドバイザー

前代表取締役会長

学部長	FD 委員長	FD 委員会	総合企画課長	係

## 2、 研修の成果

英語教育の改革が叫ばれ出してから久しく、様々な角度から英語教育に携わる方々が、英語教育の改善への提言をされている。そして今回のセミナーにおいても英語教育の、特に大学における英語教育の改善という点から、参加者によって活発に意見交換が行なわれた。

3日に行なわれた4つの講演では、3つ目の講演である早稲田大学国際教養学部教授の内田先生の講演「『英語を学ぶ』から『英語で学ぶ』へ」と、4つ目の講演である東京学芸大学教育学部附属高等学校教諭の笹田先生の講演「中等学校における語学教育の現状」が、内容が対照的で興味深かった。前者ではエリート学生の英語教育の報告が、後者では英語が苦手な高校生の実態が報告された。

話の中で、早稲田大学では、アウトソ・シングによって英語のチューターを雇い、少人数による英語教育を徹底して外国へ留学させる仕組みを採っているということである。このような教育体制を採れば、英語好きな学生はどんどん英語力が身につくことであろう。特に英語の実用的な力をつけるという点では最適である。愛知大学の現代中国学部のやり方に通じるものがあると思われる。

一方、英語が苦手な学生は、ただ単位を取るためだけに勉強をすることになる。後者の高等学校の様子は、大学でも中堅以下のところには共通する悩みがあると感じさせものがあった。英語の苦手な学生にいかに効率的に英語を学ばせるのか。これは英語教育を実用一点張りにするのか、或いは国際的な異文化教養を教えるものとするのかという、多くの英語教員がいまだに結論を出せないでいる問題に通じるものがあると感じられる。簡単な実用英語ならば文法も語彙も簡単なものでよい。しかしこれなら英会話学校で教えられることであろう。大学らしい内容の英語教育は、やはり教養的な内容の英文を読ませ国際的な教養を身につけさせるものになる。しかしこれに偏ると、英語を話したり聞き取ったりすることができない学生が増える。大学では実用面と教養面が両立した英語教育をすることが重要なのだ。このためにいろいろなカリキュラムが考えられなければならないし、教科書についても考慮されなければならない。しかし、これはまだまだ英語教員が悩んでいかなければならない問題である。愛知大学の名古屋校舎では、2006年度から嘱託教員を採用して実用英語教育に力を入れることにしている。効果を期待したい。

## 3、 授業への研修成果の反映状況

まだ研修が終わって間もないのであるが、学生に実用的な英語の実力をつけるように授業において努力している。しかし多くの点においてはこれから工夫して反映をさせてゆきたいと思う。